



GPエナジーEの営農用太陽光発電所。太陽光パネルの下ではサカキを栽培

三方よしの営農発電

農地のうえに太陽光パネルを設置し、
営農と発電事業の両立を図る営農発電(ソーラーシェアリング)。
農家が発電事業まで手掛けるのが一般的だが、営農だけを受託する場合もある。

静 岡山島田市。SLが走る大井川
鉄道で有名なこの地に、『島田
ソーラーシェアリング発電所』
がある。太陽光発電設備の出力は390kW
で、2018年3月に稼働した。

太陽光発電設備の所有者は、再生可
能エネルギー発電所を開発する多摩川ホ
ールディングス傘下の合同会社GPエナジ
ーE。同社は地元企業から遊休農地の有
効活用に関する相談を受け、営農用太陽
光発電所の建設を計画。太陽光発電所建
設大手ウエストホールディングスにEPC(設
計・調達・建設)を発注し、島田市の農業
生産法人シダベジに下部農地での営農を
委託した。

GPエナジーEは、発電した電力を1kWh

あたり36円で売電して収入を得、土地の
賃借料を地主に、営農委託料をシダベジ
に支払うため、三方よしの仕組みと言
える。

営農発電は農家の所得向上を目的に
始まった制度ゆえ、農家が発電設備の所
有者であることが多い。今回の場合は、農
家は設備を所有しないため、売電収入を
直接得ることはないが、営農委託料に加
え、農業収入を得ることができる。

注意すべき点は、太陽光パネルで日射
が遮られることによる農作物への影響だ。

シダベジの辻佑馬社長は、「日陰でも育
ちやすい作物を探すなど、試行錯誤してい
る」とし、「現在、本サカキやヒサカキを育て
ており、萋や蔕、枝豆の栽培も検討してい
る」という。